

IV-332 社会的規範を考慮した違法交通行動の重み付け

大同工業大学 学生会員 市川 隆人
大同工業大学 正会員 舟渡 悦夫

1. はじめに

現在、交通安全の観点から取り締まりの強化、反則金や行政処分点の見直しを促す意見が増加しており、交通ルールの制度に関する行政と国民の合意性が重要な問題となってきた。そこで、本研究では、罰則規定と国民の意識との間に食い違いがあると推測し、その問題点を明らかにするために、社会的規範を考慮しつつ違法交通行動の重み付けを行うことにした。

2. 一対比較調査の概要

調査の手法として Thurstone の一対比較法¹⁾を用い、被験者1人に対して調査者が一対のシーン(4コママンガで表現している)を次々に見せ回答する方式をとった。調査は、第1に種類別の一対比較調査を行い、次に種類別調査の結果をもとに、違法交通行動だけでなく日常的なモラルの軽犯罪(社会的規範)を混ぜたシーンによる統合一対比較調査を行った。

1)種類別一対比較調査：調査は平成9年11月に行い、有効回答者数は64人であった。内容は、交通違反として『軽度交通違反(7)』『重度交通違反(9)』『駐車違反(9)』『速度違反(6)』の4種類、社会的規範として『軽犯罪(9)』の5種類について各6~9項目のシーンを一対比較することにした。

2)統合一対比較調査：調査は平成10年1月に行ない、有効回答者数は132人であった。内容は5種類の違反行動の中から各2つ以上のシーン(中位の尺度)を選定することにしたが、速度違反については1シーンのみとし、合計で9項目のシーンを統合一対比較の資料とした。

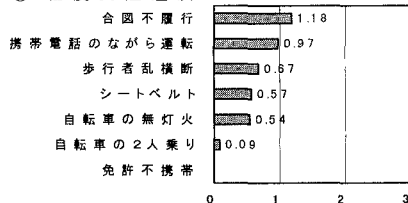
3. 調査結果とその考察

図-1は、一対比較調査の結果を示したものであり、図の横軸は一対比較法により計算された悪意性の尺度値であり、以後悪質度と呼ぶ。なお、一対比較は各種類ごと独立して行われているため、異なる種類間での悪質度を直接比較することはできない。分析の結果をまとめると、以下のようである。

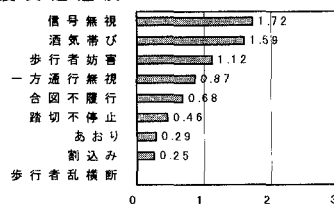
(1) 種類別一対比較調査による分析

①軽度交通違反：「合図不履行」が最も悪質度が高いが、全データを携帯電話の有無で分けると、携帯電話を持っていない人は「携帯電話のながら運転」が最も悪質であると答えてお

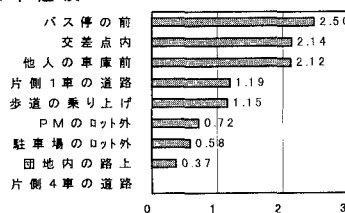
① 軽度交通違反



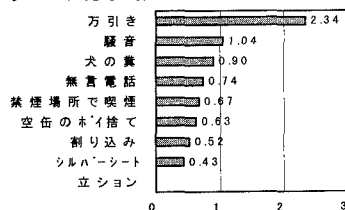
② 重度交通違反



③ 駐車違反



④ モラル的軽犯罪



⑤ 統合一対比較調査

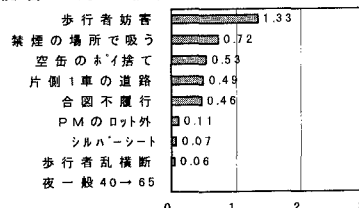


図-1 種類別交通違反の悪質度

キーワード：「一対比較」「交通違反」「悪質度」「社会的規範」

〒457-8532 名古屋市南区白水町 40 TEL 052-612-5571 Fax 052-612-5653

り携帯電話を持っている人の方が携帯電話のながら運転を危険と認識していないことがわかった。

② 重度交通違反：全体的に見ると、違反点数が高いシーンは悪質度高くなっている。しかし、交通事故の危険度が高い「踏み切り不停止」の悪質度は低い悪質度にとどまっている。

③駐車違反：「バス停前」「交差点内」「車庫前」が他のシーンと比べて特に悪質度高くなっている。また、「片側 1 車線道路」と「団地内の路上」は似た性質の違反であるが、「片側 1 車道路」のほうが悪質度高いと評価されている。

④モラル的軽犯罪：「万引き」が著しく高い悪質度を
示しているが、他のシーン間ではそれほど大き
な差が見られなかった。

(2) 重度交通違反の悪質度と交通違反点数の関係

図-2 は、交通違反点数と悪質度の関係について
運転頻度別に分類した結果を示したものである。

①毎日乗る人：「酒気帯び」よりも、「信号無視」を最も悪質と考えていることが特色であり、交通違反点数 2 の悪質度の散らばりが大きい。また他の分類の人と比べると「一方通行無視」についての悪質度が高くなっている。

②たまに乗る人：「酒気帯び」「信号無視」などの危険度の高いシーンについての悪質度は高い。しかし、信号無視を除き交通違反点数2と1の悪質度に余り差がないことが特徴となっている。

③ほとんど乗らない人：悪質度と交通違反点数とがほぼ比例関係となるような教科書の評価結果となっている。

(3) 統合一対比較調査による分析

①統合一対比較調査の結果：図-1 より、9 シーンの中では「歩行者妨害」が最も悪質であり、「禁煙場所での喫煙」の約 1.8 倍の悪質度となっている。また、「空缶のポイ捨て」「片側 1 車で駐車」「合図不履行」はほぼ同じ悪質度であった。さらに、「夜の一般道で 40km/h 制限の道路を 65km/h で走行」は大きな違反と考えられておらず、「シルバーシートを譲らない」と同程度に考えられており、その意識に問題があるといえよう。

②運転頻度別の検討：図－3 より、悪質度の高いシーンでみると、免許なし層が最も低く、次いで毎日運転する層、その他の層の順になっている。交

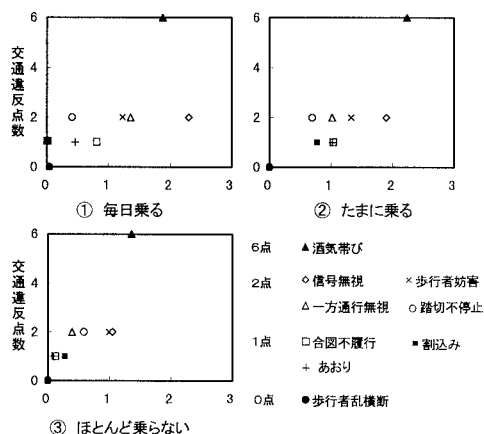


図-2 悪質度と交通違反点数の関係

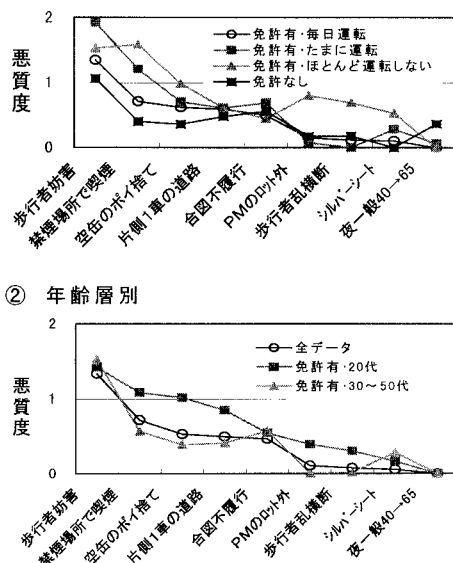


図-3 属性別にみた交通違反等の悪質度

通違反のシーンでは「歩行者妨害」のシーンに対し運転頻度による悪質度の差が大きい、他のシーンでは似通った悪質度となっている。また、ほとんど運転しない層の悪質度の変動が大きい。

③年齢層別の検討：「歩行者妨害」について年代の差はないが、「片側 1 車の道路に駐車する」に関しては 20 才代の方が悪質度が高いと考えており、「PM のロット外駐車」「歩行者の乱横断」も同様の傾向を示す結果となった。

参考文献

- 1) 佐藤 信：統計の官能検査法，日科技連出版社，p. 225-291